

国道16号 八王子～瑞穂拡幅

(再 評 価)

平成19年2月23日

国 土 交 通 省
関 東 地 方 整 備 局

目 次

1. 事業の目的	1
2. 計画の概要	2
3. 道路整備の必要性和効果	3
(1) 交通混雑の緩和	3
(2) 事故の減少	4
(3) 環境改善効果	5
(4) 沿道地域への効果	6
4. 事業の経緯と進捗	7
(1) 事業の経緯（松原地区）	7
(2) 整備に期間を要している理由	8
(3) 現在の状況	8
(4) 今後の予定	9
(5) 小荷田交差点の交差点改良による整備効果	10
5. 費用対効果	11
6. 今後の対応方針（原案）	12
(1) 事業の必要性等に関する視点	12
(2) 事業進捗の見込みの視点	12
(3) 対応方針	12

1. 事業の目的

○ 八王子～瑞穂拡幅全体事業の目的

- ・ 交通渋滞の緩和による主要幹線道路としての機能回復
- ・ 交通事故減少、沿道環境改善による安全で快適な生活環境の確保

一般国道16号は、横浜、相模原、八王子、さいたま、千葉を結ぶ延長約250kmの主要幹線道路です。

東京都多摩地区における国道16号の道路整備状況は、昭和40年代には大部分が歩道も十分でない2車線道路であり、交通渋滞が随所で起きている状況でした。

八王子～瑞穂拡幅（八王子市北部から埼玉県・東京都境までの延長14.6km区間）は、このような交通問題の解消を目的とし、昭和47年度から行っている拡幅事業です。

○ 再評価対象区間の概要

- ・ ボトルネックの解消による混雑緩和
- ・ 歩道整備による交通安全の確保
- ・ 環境施設帯整備による沿道環境の改善

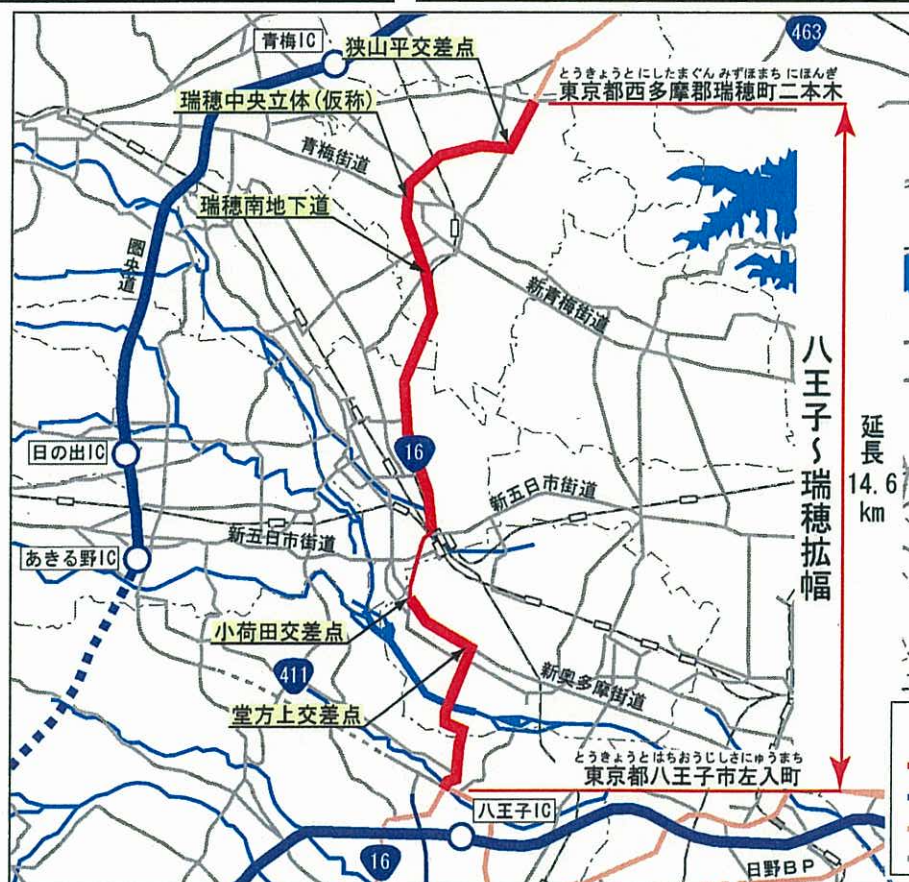
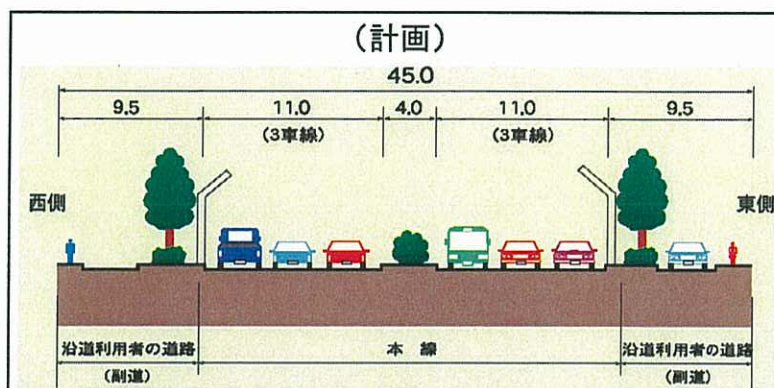
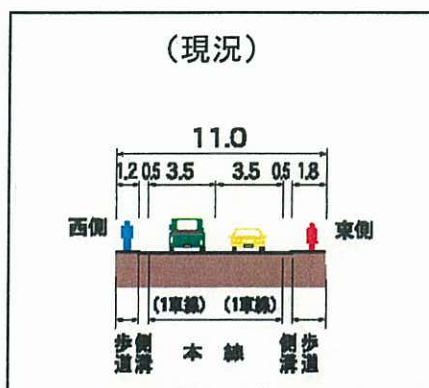
国道16号東京都内区間で最後に残った2車線区間である松原地区を中心に交通容量の低下などにより、依然として交通混雑や事故が発生している状況です。拡幅による混雑緩和、交通安全の確保、沿道環境の改善を目的としています。



2. 計画の概要

区 間	自：東京都八王子市左入町 ^{さにゅうまち} 至：東京都西多摩郡瑞穂町二本木 ^{にしたまぐんみずほまちにほんぎ}
計 画 延 長	: $L = 14.6 \text{ km}$
幅 員	: $W = 21.0 \text{ m} \sim 48.0 \text{ m}$
構 造 規 格	: 第4種第1級
設 計 速 度	: 60 km/h
車 線 数	: 4～6車線
全体事業費	: 約900億円
事業着手	: 昭和47年度

標準断面図（松原地区）



凡 例

供用	計画中・事業中
八王子～瑞穂拡幅	自動車専用道路
直轄国道	補助国道・主要地方道等

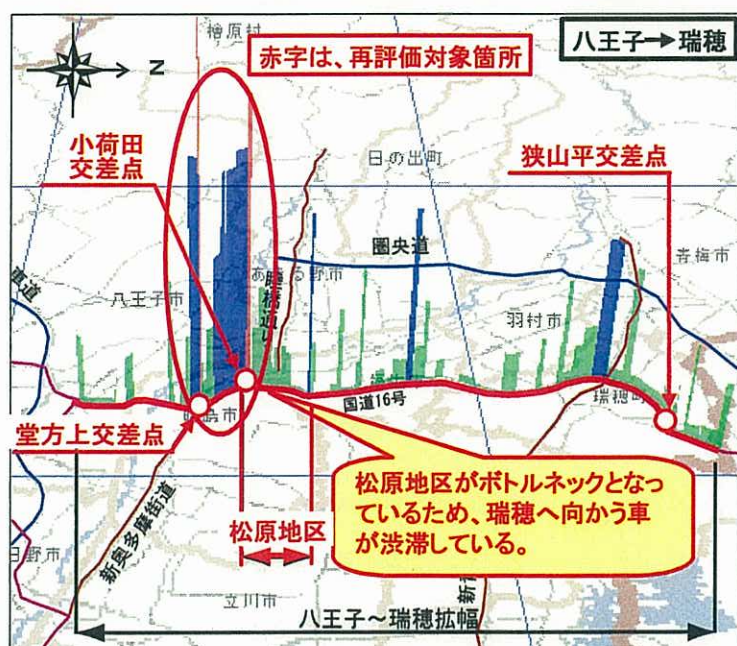
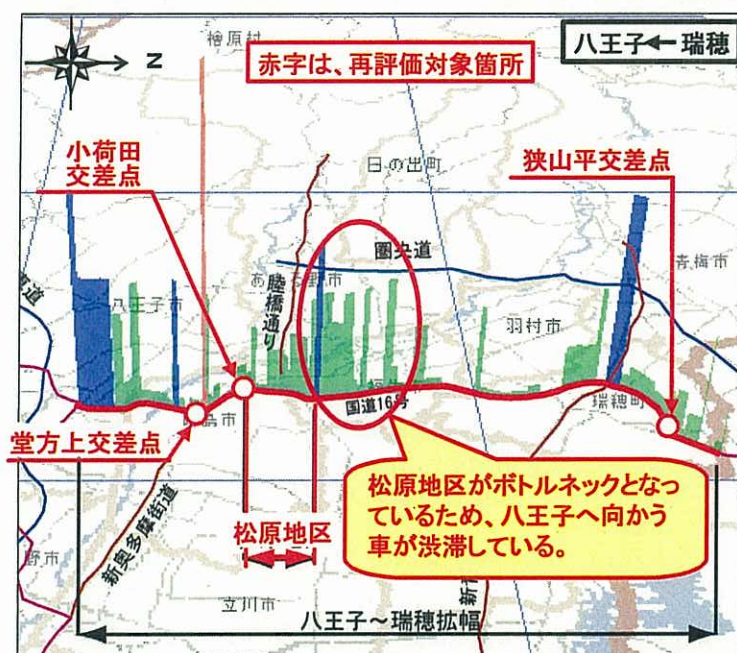
3. 道路整備の必要性と効果

(1) 交通混雑の緩和

八王子～瑞穂拡幅が整備されることにより、松原地区を中心に発生している交通混雑を緩和し、主要幹線道路としての機能回復が図られます。

■現在の渋滞損失時間

渋滞損失時間：約260万人時間/年
(渋滞損失額：約100億円/年)

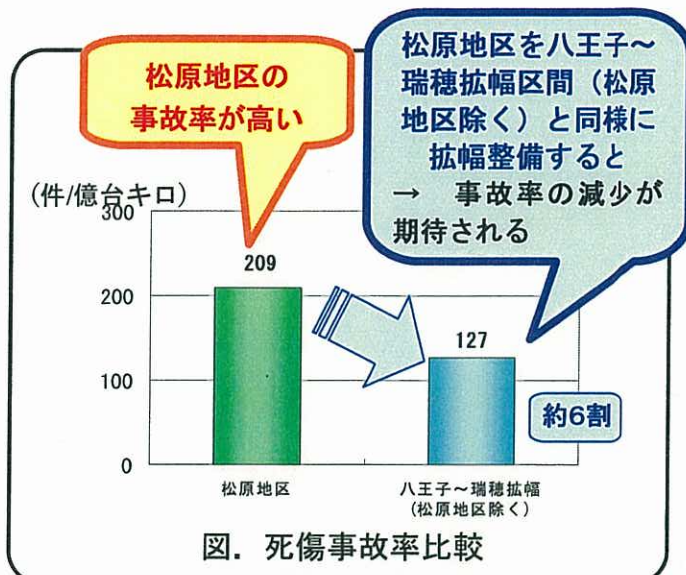
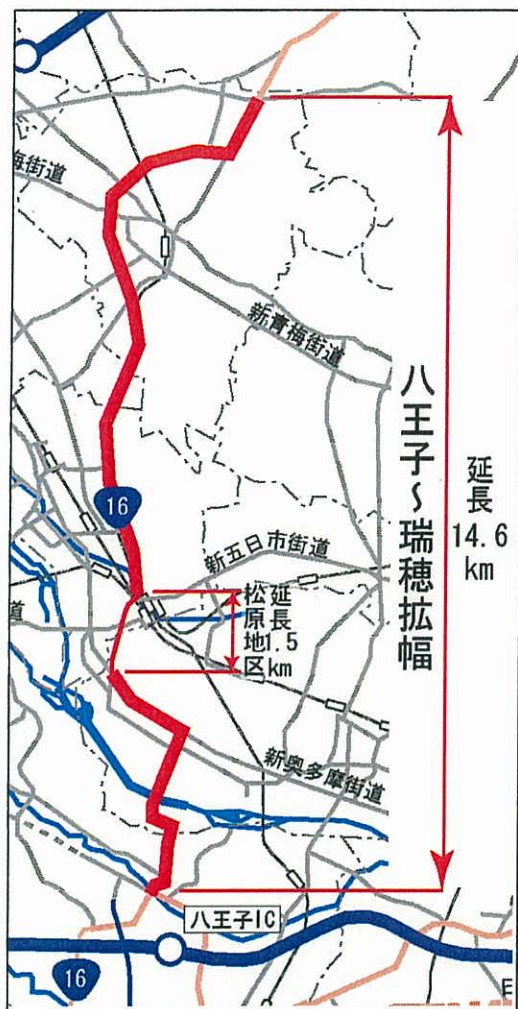


国道16号（松原地区）の混雑状況

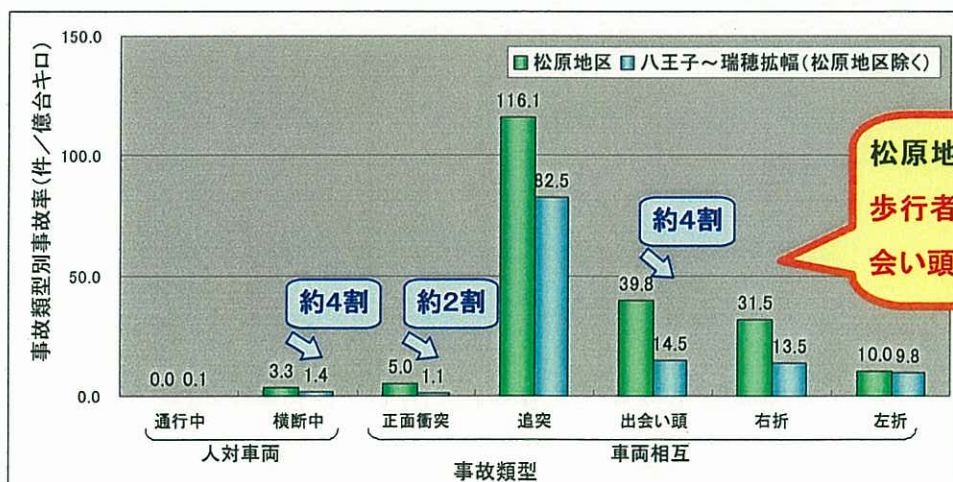
資料：H17年プローブ調査結果

(2) 事故の減少

松原地区の事故率は209件/億台キロとなっており、松原地区以外の区間と比較して事故率が高い状況です。しかし、拡幅による中央帯の設置や、歩道整備によって安全性が向上します。



- ・ 歩行スペースが狭い
 - ・ 大型車の交通量が多い
- ⇒ 歩道と車道の分離がされていないため危険な状況



松原地区は、横断中の歩行者と正面衝突・出会い頭の事故が多い

図. 事故類型別による事故割合

資料：H17 交通センサス、国土交通省資料

(3) 環境改善効果

交通の円滑化や、環境施設帯の設置により沿道環境の改善を図る八王子～瑞穂拡幅の整備により、周辺地域における大気環境の改善が予測されます。

■二酸化炭素 (CO₂)・・・年間約0.2万 t 削減



日比谷公園 (約16ha) の面積の
約12倍に相当

(植林によるCO₂削減量は10.6・CO₂/ha/年とした)

■窒素酸化物 (NO_x)・・・年間2.6 t 削減



大型車約14,000台分に相当

(大型車が東京都内 (平均走行距離70km) を
40km/hで走行した場合に換算)

■浮遊粒子状物質 (SPM)・・・SPMを年間約0.3 t 削減



500mlペットボトル約3,000本分
に相当

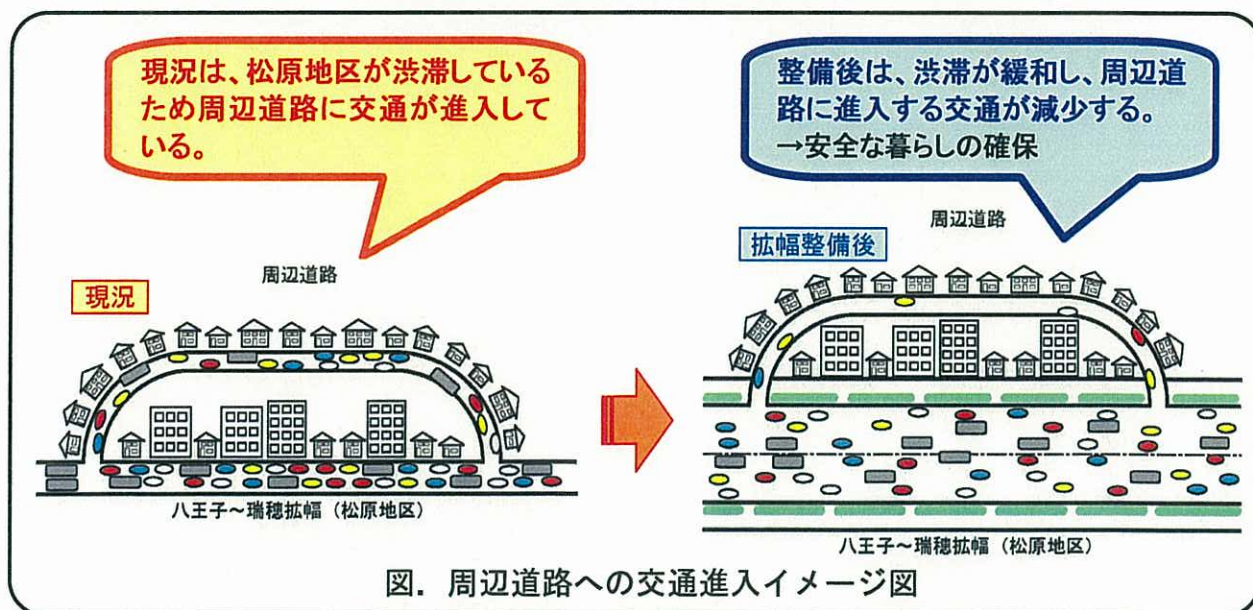
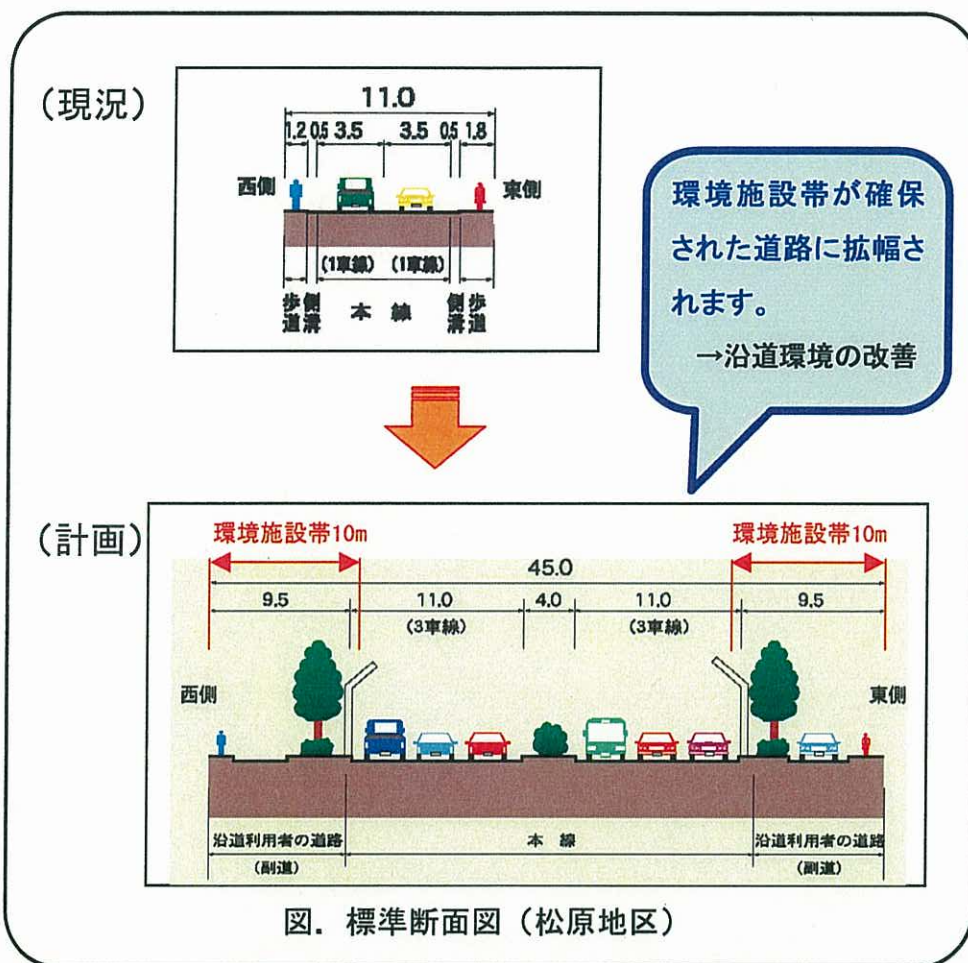
(SPM 削減量を 500ml ペットボトルに換算。
SPM100g=500ml)

資料 : 「自動車排出係数の算定根拠」(国土技術政策総合研究所資料 No141)
: 「土地利用、土地利用変化及び林業に関するグッド・プラクティス・ガイドンス (優良手法指針)」

(4) 沿道地域への効果

住宅が密集している松原地区（未整備区間）が環境施設帯を確保した道路に拡幅されることにより沿道環境が改善されます。

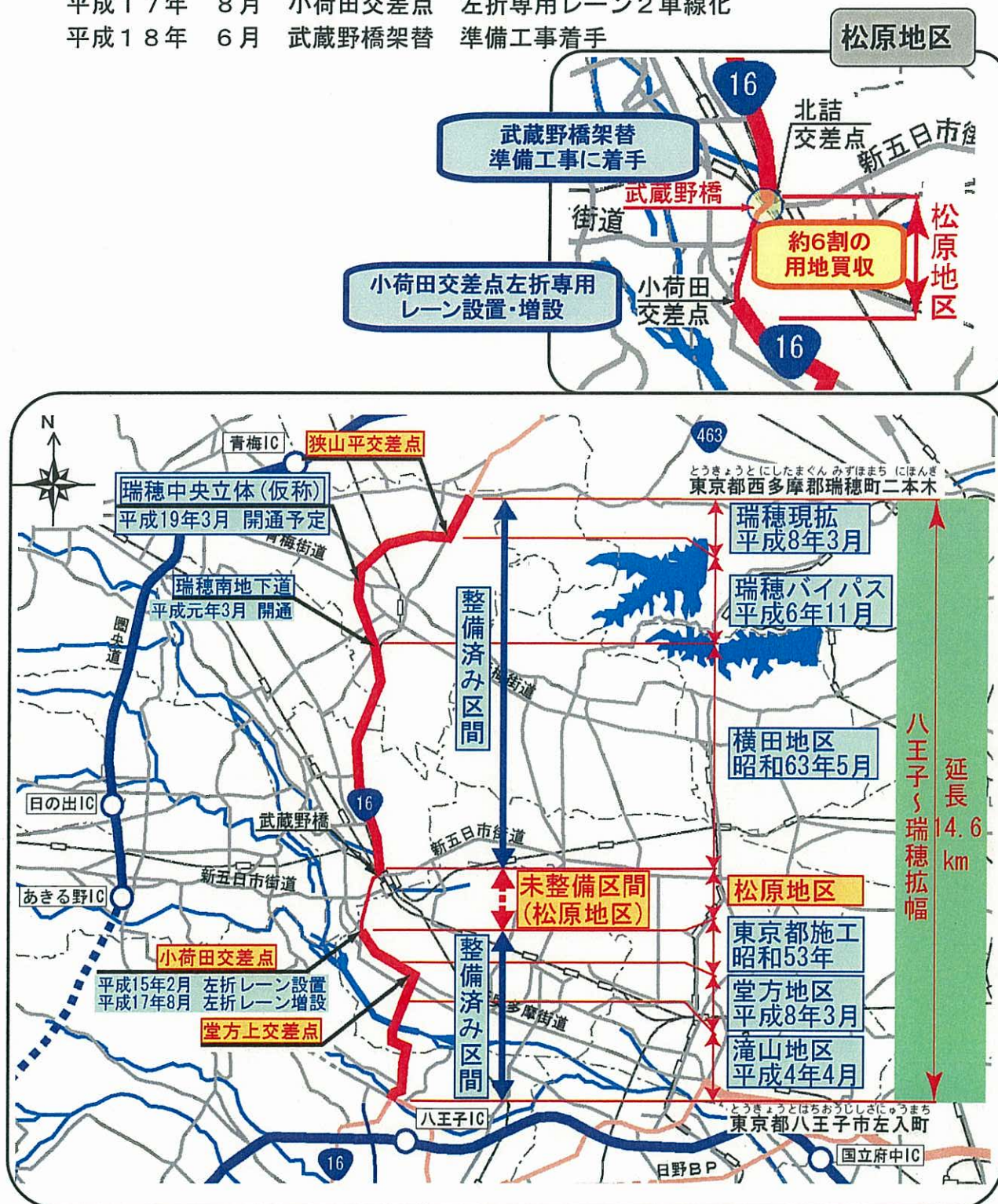
また、渋滞をさけて周辺道路へ迂回する交通が減少し、地域に安全な暮らしが確保されます。



4. 事業の経緯と進捗

(1) 事業の経緯（松原地区）

平成 9 年 7 月	松原地区都市計画変更
平成12年度	松原地区用地着手
平成14年 5 月	松原地区（小荷田交差点）起工式
平成15年 2 月	小荷田交差点 左折専用レーン1車線設置
平成17年 8 月	小荷田交差点 左折専用レーン2車線化
平成18年 6 月	武蔵野橋架替 準備工事着手



(2) 整備に期間を要している理由

本事業は14.6kmと長い区間の現道拡幅であり、整備効果を早期に発現するため、交通需要や渋滞状況等を勘案しながら渋滞の著しい区間より順次段階的な整備を進めてきています。

その手法として、渋滞の著しい河川渡河断面部の交通容量の確保のため拝島橋の架替え（滝山地区）を行い、その後に瑞穂バイパス、横田地区などの渋滞の著しい順に整備を行いました。さらに、第三次渋滞対策プログラムの主要渋滞ポイントに位置付けている小荷田^{こにた}交差点の渋滞緩和を目的として、交差点改良（左折専用レーン設置）を行いました。

今後は未整備区間（松原地区）の拡幅を進め、早期に全線多車線化を目指します。

(3) 現在の状況

(平成18年度末見込)

全体事業費	約900億円
うち用地費	約410億円
執行済み額	約680億円（進捗率76%）
うち用地費	約370億円（進捗率90%）
供用済み延長	事業区間14.6kmのうち、13.1km供用済み
立体化整備済み	全体計画5箇所のうち2箇所

注：松原地区は、約6割の用地を買収。

(4) 今後の予定

松原地区は4車線区間に挟まれた2車線区間であるためボトルネックとなっていることから、渋滞を避ける通過交通が周辺道路等に流入し、周辺を含め慢性的な渋滞を引き起こしています。また、小荷田交差点は主要な渋滞ポイントになっており、松原地区の早急な整備が必要となっています。

今後は、耐震補強が必要である武蔵野橋の架替えに着手し、圏央道のアクセス道路の一つである新五日市街道との重複区間および松原地区の拡幅を進め、早期に全線多車線化を目指します。

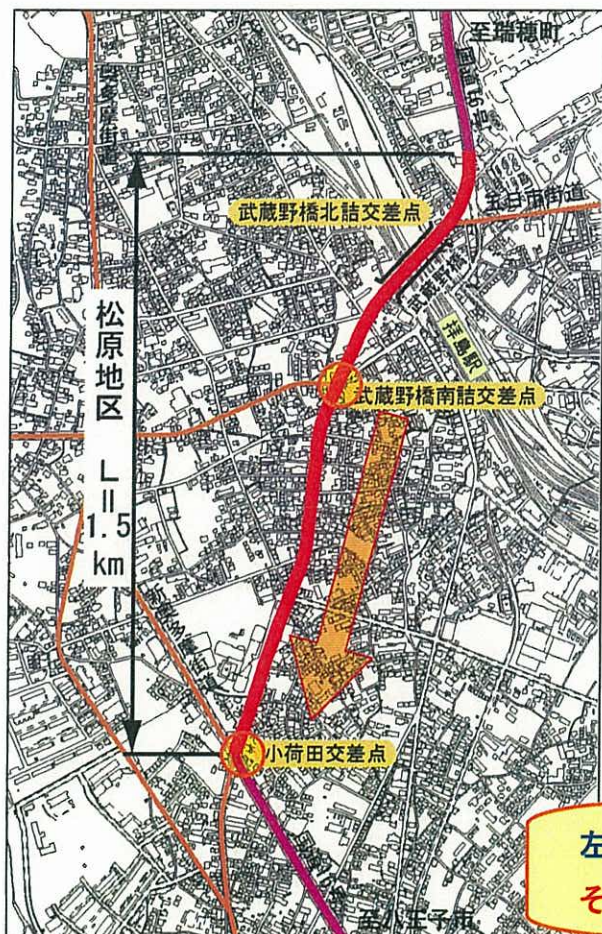
さらに、周辺道路網の整備状況、交通状況の変化を考慮し、残る交差点の立体化を進めていきます。



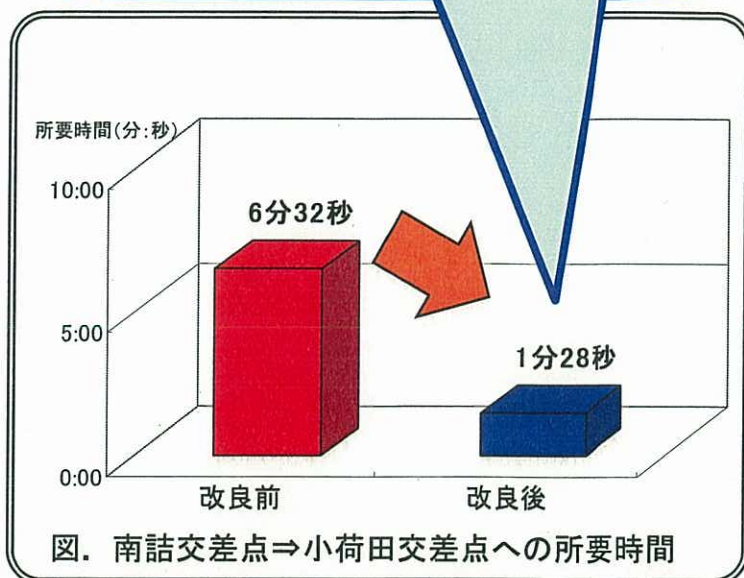
(5) 小荷田交差点の交差点改良による整備効果

左折専用レーンを平成15年2月に1車線設置、平成17年8月に2車線化したことにより、国道16号を瑞穂町方面から八王子市方面に向かう交通渋滞が解消されました。

しかし、左折専用レーンを設置した方向以外では渋滞が残っているため、さらに対策が必要となっています。



左折専用レーンの設置・増設により
所要時間が約 $1/4$ に短縮



左折専用レーンの設置箇所の渋滞は解消
その他の方向では渋滞が残るため、さらに対策が必要



設置前調査日: 平成14年9月19日
設置後調査日: 平成17年11月29日

5. 費用対効果

路線名	国道16号
事業名	八王子～瑞穂拡幅 (東京都八王子市左入町～ 東京都西多摩郡瑞穂町二本木)
延長	14.6km

□便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年における 現在価値(B)	411億円	25億円	4億円	440億円

□費用

	改築費	維持管理費	合計
基準年における 現在価値(C)	263億円	5億円	268億円

□算定結果

B/C	440億円(総便益)/268億円(総費用)	1.6
-----	-----------------------	-----

注) 1. 費用及び便益額は整数止めとする。

2. 費用及び便益の合計額は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

6. 今後の対応方針（原案）

（１）事業の必要性等に関する視点

八王子～瑞穂拡幅事業は、全体の約９０％の拡幅が完了していますが、東京都内で最後に残った２車線区間である松原地区を中心に、交通容量の低下などにより、現在も交通渋滞や事故が発生している状況にあります。

松原地区を中心に発生している交通渋滞の緩和や、交通事故の減少、沿道環境の改善のため、当該拡幅事業が必要です。

（２）事業進捗の見込みの視点

八王子～瑞穂拡幅（松原地区）は、地元の要望も高く、地元の協力を得ながら用地買収（約６割）および工事を進めています。小荷田交差点付近においては、概ね用地買収が完了し、左折専用レーン設置を行っております。また、武蔵野橋付近においても概ね用地買収が完了しており、平成１８年６月に武蔵野橋架替の準備工事に着手しております。今後も引き続き、用地買収、工事の促進を図り早期の開通を目指し事業を進めます。

（３）対応方針

当事業は継続が妥当と考えており、今後も引き続き用地買収、工事の推進を図り早期の開通を目指し事業を進めます。

さらに、今後は周辺の道路網の整備状況、交通状況の変化を考慮し残る交差点の立体化を進めていきます。